

巻頭言

100周年

The Centennial Anniversary

執行役員
開発本部副本部長
(兼) 車両第一開発センタ所長

成瀬 真己
Masami Naruse



コマツは2021年5月に100周年を迎えます。1921年5月13日、石川県小松市で銅鉱山を経営していた竹内鉱業から自家用機械を生産していた小松鉄工所が分離独立し株式会社小松製作所が設立されたのが始まりです。その後、国の要請に応えたT25農耕用トラクタの開発(当時の満州開拓の目的もあった)を皮切りに戦後は国土復興のためブルドーザの開発生産を本格化させながら開発機種・コンポーネントを増やし海外展開を進め、建機鉱山機械のフルラインメーカーとして世界第2位の地位を確立しました。日本国内における100周年企業の数も全体の約1%、海外を見渡しても多くありません。戦前～戦後を通じて幾多の経済的社会的問題や競合メーカーとのタフな競争を乗り越えるため、数多くの先人がその時々、品質と信頼性を基軸とし、お客様の現場現実を理解して創意工夫を重ねて、機械・技術の改善、新商品の導入、サービスサポートの品質を上げ続けてきたことが長きにわたるコマツの持続性を支えていると確信しています。

現在は、GAFAMなどデジタル活用によるプラットフォームビジネスが注目されています。コマツもIoTを活用しデジタルツインで見える化し、お客様の現場の工程効率化・省人化・安全性向上を提供するための必須の技術としてICT建機によるDXスマートコンストラクションの展開を強力に進めています。これは、現場の建設機械が精度よく実際の施工を終えることと、トラブル発生時のきめ細かい現場サービスと改善の継続が必要であり、当たり前のように高精度に動くリアルな機械と、リアルな現場サポートが必須アイテムです。

コマツはダントツハードを土台としたダントツサービス・ダントツソリューションでお客様の課題解決と共に安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場実現を目指します。車両開発においても、当たり前のように長時間、元気よく、精度よく、効率よく稼働するダントツのベースマシンの品質と信頼性向上のため、日々の地道な設計技術力向上と経験の蓄積、そして新しい技術に果敢に挑む組織づくりと、次世代への継承に心を配ることが現役世代の大切な役割だと思います。

コマツが開発する鉱山建設機械が搭載するディーゼルエンジンは、ベンツがトラックに搭載し生産を開始したのが1922～23年頃で、ほぼ同時期に100周年を迎えます。コマツの生産機械は、ディーゼルエンジンの進歩と共に1世紀の歴史を歩んできたとも言えます。今節目を迎えるこの時期に合せたかのように、地球規模の気候変動問題から発した全世界的なCO₂削減の大きな波が立ち上がってきているのは大変意味深いと感じます。内燃エンジンが大きな変革を迫られると共に、鉱山建設機械の成り立ち・構造・技術にも革新が求められます。我々は、従来技術を高めながら、主要コンポーネントを内製している強みを生かし、より統合し耐久性、効率を上げ、環境にも配慮した革新的な車体システムを実現しなければいけません。

コマツは脱炭素社会実現に向けての国内や海外の社会要請を踏まえつつも、全世界の鉱山土木碎石のさまざまな地域の特長、業態や規模に応じて、お客様の課題解決のため、製品開発のバリエーションを増やしていくことになるでしょう。鉱山建設機械は全世界で稼働して、それぞれの地域で国家経済を支える重要ビジネスであり、社会インフラを支える必須業種を支えています。モノ(ハードの品質・信頼性・コスト)を重視する、コト(現場施工全体の効率向上)を重視する、環境を重視する、それぞれのお客様に対して、最適な商品・サービス・ソリューションを実現して提供し続ける、そんなメーカーで在り続けなければいけません。

2021年100周年を迎える企業は日本で3696社、200周年を迎える企業は2社です。激減です。次の100年に向け、商品開発者の誇りを胸に、大きな変革の波を技術で乗り切ることを目指します。